

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4677700108
法人名	社会福祉法人 聖光会
事業所名	グループホーム 蒼水園
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本1250番地1 (電話) 0994-24-3100
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成21年12月11日

## 【情報提供票より】(21年10月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 常勤 15 人, 非常勤 人, 常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木・鉄骨造スレート葺平屋建	鉄骨造合金メッキ鋼板葺平屋建
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,600 円	その他の経費(月額)	1,600 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

### (4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 津崎医院 ・ 永田歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心部近くの高台に特別養護老人ホームと共に建てられている。建物に入ると掃除が行き届いた広いホールがあり、来所者への職員のあいさつや声かけが気持ちよい。1号館、2号館は連携を取りながらも特徴を持ち個性を生かしたケアに取り組んでいる。利用者や家族が参加した話し合いからケアプランが作成され、利用者の意向を大切にしたいという事業所の姿勢がうかがえる。また、変化を細かくとらえ、新鮮な目で見直し、新しいケアプランが作成されている。さらに、最期まで住み慣れた環境で安らかに暮らしたいと願う利用者のために、事業所代表者でもある医師と特養看護師などと連携し、家族とも相談しながら看取り介護に取り組んでいる。同意書や会議録など、諸記録の充実にも取り組む一方で、利用者のゆったりとしたペースは守られているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価結果を職員ミーティングで伝達し、改善内容を話し合った結果、継続的に改善に取り組んでいる。また、家族会でも報告し、玄関に設置して誰もが目を通すことができるようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価はミーティングでの話し合いをまとめたもので、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者代表、家族代表、自治会長、町役場職員、地域包括支援センター職員などの参加があり2カ月ごとに開催している。昨年度の外部評価結果についての報告が行われたり、事業所への意見や質問などがあり有意義な会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	第三者委員を選任し家族が意見や要望を表しやすいような配慮がみられる。職員が苦情などを把握した時には苦情・相談記録に取り上げ、解決策を話し合い、運営者や家族に報告するほか、日常の要望は申し送りノートで他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	特養と併設の建物であり、周囲に民家が少ない環境ではあるが、特養の利用者、小・中学生、高校生との交流を図り、地域行事へも参加するなどできるだけ機会を見つけ地域との関係づくりに向け努力している。

## 2. 評価結果（詳細版）

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時に作成した「共に感じあい寄り添いながら」「あなたらしく生活できるように」「ご家族や、地域との関わりあいを大切に」などの言葉を含むグループホーム独自の理念があり、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務やミーティングの中で折に触れ理念を確認し介護に取り組んでいる。また、作成された理念は玄関やリビングに掲示し職員のみでなく来所者にも伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特養と併設の建物であり、周囲に民家が少ない環境ではあるが、特養の利用者、小・中学生、高校生との交流を図り、地域行事へも参加するなどできるだけ機会を見つけ地域との関係づくりに向け努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価結果を職員ミーティングで伝達し、改善内容を話し合った結果、継続的に改善に取り組んでいる。また、家族会でも報告し、玄関に設置して誰もが目を通すことができるようにしている。今回の自己評価はミーティングでの話し合いをまとめたもので、サービスの質を向上させるために有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、自治会長、町役場職員、地域包括支援センター職員などの参加があり2カ月ごとに開催している。昨年度の外部評価結果についての報告が行われたり、事業所への意見や質問などがあり有意義な会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に担当窓口へ出向いたり電話により、積極的に相談や情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が少なくとも毎月1回はある。利用者の暮らしぶりを伝えたり、職員の異動や金銭管理について説明をし、家族による出納簿の確認も行われている。ホーム便りも毎月配布し写真などを利用して利用者のようすを紹介している。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話で家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を選任し家族が意見や要望を表しやすいような配慮がみられる。職員が苦情などを把握した時には苦情・相談記録に取り上げ、解決策を話し合い、運営者や家族に報告するほか、日常の要望は申し送りノートで他の職員と共有し、速やかな解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮している。異動がある時には引き継ぎ期間を十分に設け、情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修を利用したり、ホーム内では年間計画に基づいた研修が行われている。資格の取得や施設外研修への参加も積極的である。研修によって、勤務の調整をしたり受講費を法人が負担するなどの支援をしている。しかし、職員の段階に応じた育成を具体化する方針の作成は今後の課題である。	○	立場や経験などに応じて段階的に力をつけていけるような研修方針などを明文化することが望まれる。限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないように研修機会を確保するためにも、運営者や職員と十分に話し合いながら年間計画の中で位置付けていく運営面での工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修で意見交換を行いながらネットワークづくりやサービスの質の向上を図っている。しかし、以前行っていた、他のグループホームとの交流は現在中断し、交流の機会が減少している。	○	地域の同業者、特に他の法人との交流を図ることにより、相互評価や、職場内で行き詰っている日ごろの仕事の悩みの解消や、緊急時の連携をスムーズにするなど、事業所や地域全体のサービスの水準の向上につなげていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけ本人や家族にホームの見学をしてもらっている。施設からの入居の場合は管理者などが訪問し、心配や希望を聞き取り、本人がホームに馴染みやすいように気を配っている。また、入居後は家族の訪問を多くしてもらうなどの協力を求め、ともに支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で料理方法など得意なことを教えてもらったり、行事や季節の習わしを覚えてもらうなど、学んだり支えあう関係を築いている。また、利用者同士の助け合いや支えあいの場を提供し会話や情報交換が活発になるように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の参加がある。希望や意向を基に、診療時に主治医と相談し計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合うことで、職員の気づきやくみ取った利用者の意向を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護計画を毎日確認し、計画にそって実施したサービスを記録している。さらに、毎月1回は評価を行い、状態に変化があり計画の見直しが必要な場合は担当者会議を開いて再度計画を作成している。また、状態に変化がなくても6ヶ月毎にアセスメントを行い新しい計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や早期退院に向けての支援など柔軟に対応している。また、隣接のデイサービス利用者の訪問を受け入れゆくり会話を楽しんでもらったりと、地域の知人との交流や楽しみを支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、協力医療機関の医師の訪問や隣接する特養の看護師との毎日の情報交換により健康への支援を行っている。通院介助も行われ、その際に利用者の日頃の状況が主治医や医療担当者に伝えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看とりに関する指針」に沿ってケアを提供している。入居の際、家族などに説明し同意を得て、入居後は利用者、家族の意向を確認し、主治医などに対応方針を話し合っている。主治医や隣接の特養看護師と連携し、職員間で方針の共有を図り、利用者の意向を尊重した終末期ケアを行った経験がある。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護方針についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては、ミーティングで話し合いながら個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容・嗜好品などの選択を支援しその人らしい暮らしができるように環境を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立によっては入居者と職員と一緒に調理を楽しんだり、食卓の準備をしながら、生活の中で食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。口腔ケアや嚥下体操を支援することで口内炎の予防や誤飲性肺炎を防止し、食事を安心しておいしく食べられるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。利用者の意向を聞きながら希望に合わせての入浴状況である。入浴を楽しめるように工夫し、利用者の殆どが入浴を楽しみにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬物、梅酒、お菓子作りなど生活歴から好きなことを見つかけたり、入居後に新たに力を引き出したりしながら利用者一人ひとりの豊かな暮らしを支援している。また、地域や特養行事への参加、墓参りや帰宅、買い物など、楽しみごとを探し、提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見などの行事、買い物、墓参りなど、計画に組み入れながら家族と協力し外出の機会を提供している。また、天気の良い日は散歩や畑仕事、日光浴など、戸外に出るようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束等について会議や研修を行い、玄関をはじめ、各居室に鍵をかけない自由な暮らしを実現するための努力をしている。職員は常に利用者の状態を把握し、外出するときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した訓練も含め、避難訓練を毎月行っている。さらに、風水害についてもマニュアルを作成し、職員間で共有を図り、非常用の食品も保管し緊急時に備えている。地域の消防団や自治会長の参加も呼びかけ、協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量やおおよその飲水量を毎日把握し、排泄状態も観察しながら体の状態を判断しケアに活かしている。栄養バランスや献立については、管理栄養士の作成したものを利用するが、利用者の希望などに合わせ臨機応変に変更している。また、一人ひとりの能力を見極め小さめに刻む、そばで見守るなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールにソファやテレビが置かれゆったりと話ができ、壁には利用者の作品が飾られている。ホールを囲むように居室が配置され、日差しが明るく、台所の料理のようすが感じられ五感を刺激している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族などの来訪者も泊まれる程の広い居室に使い慣れた家具や仏壇、思い出の写真をはじめ、趣味の品など利用者の馴染みのものが飾られている。また家族とも相談しながら部屋作りをしている。		